




## 令和5年度 家庭教育学級の学習の足跡

第	テ ー マ	
2 回	3年「ソラール出前講座『昆虫の不思議』」(PTA3年学級活動との連携)	
講 師		参加者数
市青少年科学館ソラール指導員 原田 誠大 さん		児童16名 大人16名
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>一見、昆虫かな？</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>昆虫の共通点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>蟻・カブトムシを虫眼鏡で観察</p> </div> </div> <p>今年度3年生の家庭教育学級は、保護者の方と一緒に市青少年科学館ソラール出前講座「こん虫のふしぎ」(講師 原田 誠大さん)に参加しました。</p> <p>はじめに原田先生から、ザリガニ、ダンゴムシ、チョウなどのうち、どれが昆虫か尋ねられました。3年生はすでに教科書で学習しているので、全員が正しく挙手できていました。</p> <p>続いて、「昆虫クイズ」が電子黒板に次々と映し出されましたが、3年生にはもともと昆虫好きが多いとのことで、素早く解き進めていきました。原田先生からは、「種類の違う昆虫も『頭』『胸』『腹』の3つの部分からできているけれど、それぞれ形や大きさ、長さが違ってきますね。どうして違うのか、その理由を考えてみても面白いかもしれませんね。」と言われ、考え込む児童の姿も見られました。</p> <p>次に、アリの足がその体のどこからどのようにについているのか図示しようという課題が出されました。真剣に考え込む児童たちでしたが、さすがに体の小さなアリを詳しく見た経験がないのか、鉛筆も止まり気味です。すると原田先生がカップに入った生きたアミメアリと虫眼鏡を児童保護者1組ずつに配ってくださいました。アリの登場に児童から歓声が上がりました。アリの課題を終えた後、続けてカブトムシの課題が出されました。カブトムシは児童の人気が高くて、熱心に課題に取り組む、再び原田先生が配布用に生きたカブトムシを机に出されるとさらに大きな歓声が上がりました。</p> <p>カブトムシ自体は知っているけれど、実際に触った経験が少ないとのことで、手袋をつけてこわごわと触ったり、手のひらに載せてじっくり観察する児童もいました。実体験の大切さが実感できる1時間となりました。</p> <p>出前講座をされた市青少年科学館ソラールの原田先生、事前準備、打合せをされたPTA学級委員の皆さん、本当にありがとうございました。</p>		